

## 伊東敏Lによる「我がアカウント魂」

L 星野紘紀

3月4日第1例会において伊東敏Lによる「我がアカウント魂」と題するメンバースピーチがあった。

伊東Lは岡本元会長をスポンサーとして入会されたが、入会に先立ち岡本Lから「公認会計士の伊東（敏）さんをご存知ですか。」と聞かれた。

私には伊東（敏）さんの顔が浮かんで来ない。いろいろ聞いて行くと伊東（敏）さんらしい。「（敏）さんなら良く存じ上げていますよ。」と云う事で一件落着。

会計士業界、中央大学公認会計士仲間では「敏さん」で通っている。

自己紹介にあったように、敏さんは学部では井上達雄先生のゼミ、大学院でも指導教授が井上先生で、生粋の井上門下生である。

当時中央大学の研究機関として経理研究所（現存）が併設され、まさに実学の府として一般向けの簿記・会計講座が公開され、取り分け公認会計士、税理士の受験講座は絶対的権威があった。また、この経理研究所は、学内選抜試験によるCPA特別研究生制度を設け、公認会計士受験生の全面的支援を行って居り、敏さんも私も、そして亡くなられた松浦Lもこの研究生として試験に合格している。

敏さんは合格後、後輩達を指導し、アンダーセン退職後も会計大学院教授として教鞭を執られている。

敏さんの師、井上達雄先生は黒沢清、太田哲三と云う戦後の経済復興（資本市場の育成）の中で日本の会計学を背負って来られた先生達の系を承継されて居り、敏さんはその直系として「熱と誠」の薫陶を受け、それを縁として監査業務に従事されたとの事で、それが「アカウント魂」根源その1である。

当時、公認会計士試験のバイブルとして「例解会計簿記精義」と云う井上先生の名著があったが、先生の御自宅はその印税で建てられて居り、「簿記御殿」と云う巷の噂(?)もあった。

彼は、国際派の公認会計士で、私のような市井の公認会計士と畑が違うが、中国ハルビン生まれで、国際派は大陸生まれに根源ありと勝手に領いた次第である。

ここまでの経歴だけを聞くと「バタ臭い会計士」（失礼）と思いきや、敏さんの尊敬する仕事は「erの字」付き、それもカーペンター、その上に「宮大工」と続く。

自宅の新築に際しては、宮大工の奥さんを祀ったお寺のおかめの面を建前の飾り物として、安全祈願を行ったと云う凝り様である。「何でも鑑定団」の中嶋鑑定士の言を借りれば「いい仕事をしていますネ！」と云う新居が完成した事でしょう。

因みに敏さんの尊敬する仕事師カーペンターの「er」の可能性を期待してアカウント

を英和辞典で引いて見たところ「兵士が装具を身に付ける」と出た。

敏さん、この際「も」の字に甘んじましょうよ。

アーサーアンダーセンは世界一のアカウンティングファームで、敏さんはその第一線で活躍された。

そこで監査のプロフェッショナルとして「知を培い、その知をもって物の本質を見抜く」と云う「Think Straight , Talk Straight」のアンダーセン流の哲学を叩き込まれ、時に不正経理を暴くと云う厳しい局面にも耐えることが出来たとの事である。

アンダーセンはエンロン事件と云う監査の信頼性失墜事件により消滅したが、この哲学が敏さんの50年余に及ぶアカウンタント人生を支えた第2の魂になったと云う。

私も特研生時代の縁で「井上斉藤英和監査法人」（英和=アンダーセン）の頃に井上先生のお手伝いをし、その後英和を継承した「あずさ監査法人」では私の息子も英和の精神に接する機会を得ている。

グローバル化、インターナショナル等々カナ文字が先導する世の中であるが、官大工を尊敬する国際派会計士の敏さんのように民族の精神的支柱、国家存立の支柱を大切にしたいものと思う。

以上